

作成日 2025年3月5日

製品安全データシート (SDS)

1. 化学品等及び会社情報

化学物質等の名称 キラコートEX 本剤 A液

会社情報
会社名 協和商工株式会社
住 所 大阪府泉大津市田中町10-7
電話番号 0725-21-5767
FAX番号 0725-21-7827

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的 危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	エアゾール	区分に該当しない (分類対象外)
	酸化性ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	高压ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない (分類対象外)
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない (分類対象外)
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない (分類対象外)
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する 有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない (分類対象外)
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2

生殖毒性・授乳影響	授乳に対するまたは授乳を介した影響に関する追加区分
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分あり 臓器情報なし 区分2
誤えん有害性	分類できない
環境に対する1水生環境有害性 短期 (急性)	区分3
水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示 (ピクトグラム)



注意喚起語

危険

危険有害性情報 皮膚刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
授乳中の子に害を及ぼすおそれ
長期にわたる又は反復ばく露による臓器情報なしの障害のおそれ
水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

応急措置

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師／...に連絡すること。
特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察／手当てを受けること。
呼吸に関する症状が出た場合: 医師／...に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物（製品）の区別 混合物
成分及び濃度又は濃度範囲

CASNo.	組成	濃度	化審法	安衛法	毒劇物法	PRR法 管理番号
556-67-2	オクタメチルシクロテ ラシロキサン	45	(7)-475	(7)-475	非該当	601
6851-17-7	イソパラフィン	30～40	(2)-10	(2)-10	非該当	非該当
68551-16-6	アルカン	1.5	(2)-9(2)-10	(2)-9(2)-10	非該当	非該当
108-88-3	トルエン	4.7	(3)-2(3)-60	(3)-2(3)-60	該当	非該当
67-56-1	メタノール	0.1未満	(2)201	(2)201	該当	非該当
非公開	アルキルシリコンレジン	3～4	(7)-491	(7)-491	非該当	非該当
非公開	シリコンオイル	3～4	非公開	非公開	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した
場合 ミスト、蒸気などを大量に吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動さ
せ、安静にする。症状があれば医師の診断を受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師の診断を受けること。

皮膚に付着し
た場合 付着液を紙、布にて素早く拭きとること。大量の水及びせっけん等または皮膚用の
洗剤を利用して洗い流す。皮膚刺激が生じた場合医師の診断を受けること。

眼に入った場
合 誤って眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。

コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は、外して洗浄を続けること。眼
の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場
合 直ちに吐かせ、医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂
使ってはならない消火剤 棒状の水を用いてはならない

火災時の特有の危険有害性
特有の消火方法

利用可能な情報なし

消火活動を行う者の特別な保護具

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器及
び消火装備を着用する必要がある。

消火活動を行う者の予防措置

可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。消火作
業は、可能な限り風上から行なう。

6. 漏出時の措置

人体に対する
注意事項、保
護具及び緊急
措置 作業の際には保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。屋内で漏洩した場合は
十分に換気を行うこと。風上から作業し、風下の人を退避させる。着火した場合に備
えて、消火用機材を準備する。漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼
鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する 環境中に放出してはならない。

注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖室への流入を防ぐ。

封じ込めの方 全ての発火源を取り除く（近傍の禁煙、火花や火災の禁止）

法及び機材・ 少量の場合、乾燥土、不燃材料、砂等を用いて吸着させて、密閉できる空容器に
材料 回収し、後で廃棄処理する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

浄化の方法及 利用可能な情報なし

び機材・材料

二次災害の防 環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い_技 ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

術的対策

取扱い_安全 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する

取扱注意事項 温度40℃以上の所では取扱わないこと。

火気のある所では取扱わないこと。

温度40℃以上に暖めないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしては
ならない。

使用前に説明書を入手すること

取扱い後はよく手を洗うこと

屋外又は換気の良いところで使用すること。

取扱い_接 安定性及び反応性を参照

触回避

取扱い_衛 取扱い後はよく手を洗うこと

生対策

保管_ 温度40℃以上になる所に保管しないこと。

安全な保管条 通気の良い場所に保管すること。

件 子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の
設備を設ける。

保管_

安全な容器包 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

装材料

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

局所排気装置、全体換気の設備を使用する。

許容濃度

	日本産業衛生学会	ACGIH
オクタメチルシクロトラシロキサン	設定されていない	設定されていない
イソパラフィン	設定されていない	設定されていない
アルカン	設定されていない	設定されていない
トルエン	188mg/m ³ 50ppm	200ppm
メタノール	260mg/m ³ 200ppm	200ppm
アルキルシリコンレジン	設定されていない	設定されていない
シリコンオイル	設定されていない	設定されていない

設備対策

局所排気装置、全体換気の装置を設置すること。
防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器用の保護具を借用すること。
必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

手の保護具

必要に応じて保護手袋等を使用する。

眼の保護具

必要に応じて保護眼鏡を使用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護面等を使用する。
不燃性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色透明

密度及び／又は相対密度

0.876

引火点

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし

化学的安定性

常温以下では安定。

危険有害反応可能性

危険な重合は起こらない。

避けるべき条件

特になし。

混触危険物質

強酸化剤と反応する場合がある。

危険有害な分解生成物

二酸化ケイ素、酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物
ホルムアルデヒド

製品としてデーターなし

	オクタメチルシクロテトラシロキサン	イソパラフィン	アルカン	トルエン	メタノール	アルキルシリコンレジン	シリコンオイル
急性毒性 (経口)	分類できない	分類できない	分類できない	区分5	区分4	分類できない	分類できない
急性毒性 (経皮)	分類できない	分類できない	分類できない	区分外	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入:気体)	分類できない	分類できない	分類できない	分類対象外	分類対象外	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入:蒸気)	分類できない	分類できない	分類できない	区分4	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない	分類できない	分類できない	区分2	分類できない	分類できない	分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない	分類できない	分類できない	区分2B	区分2	分類できない	分類できない
呼吸器感作性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感作性	分類できない	区分2	区分2	区分外	区分外	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない	分類できない	区分外	区分外	分類できない	分類できない
発がん性	分類できない	分類できない	分類できない	区分外	分類できない	分類できない	分類できない
生殖毒性	区分2	分類できない	分類できない	区分1A	区分1B	分類できない	分類できない
生殖毒性・授乳影響	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない	分類できない	分類できない	区分1	区分1	分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない	分類できない	分類できない	区分1	区分1	分類できない	分類できない
誤えん有害性	分類できない	区分2	区分2	区分1	分類できない	分類できない	分類できない

	オクタメチ
--	-------

[illegible]

生態毒性	製品としてデータなし
残留性	製品としてデータなし
分解性	製品としてデータなし
生体蓄積性	製品としてデータなし
土壤中の移動性	製品としてデータなし
備考	

13. 廃棄上の注意

環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物 (化学品)	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	:	危険物
航空規制情報	:	危険物
国連分類 (Class)	:	3
国連番号 (UN Number)	:	1866
輸送品名 (Proper Shipping Name)	:	RESIN SOLUTION
包装分類 (Packing Group)	:	II
危険性ラベル	:	Flammable Liquid

国内規制

陸上規制情報	:	消防法の規定に従う。
積載方法	:	運搬時の積み重ね高さは3m以下。
海上輸送	:	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	:	航空法に定めるところに従う。

緊急時応急措置

* 北米緊急時応急措置指針に基づく。米国運輸省が中心となって発行した「Emergency Response 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

その他の注意

備考

15. 適用法令

労働安全衛生法 名称などを表示すべき物質 トルエン メタノール アルカン(イソパラフィン、ノナン含有)

名称などを通知すべき物質 トルエン メタノール アルカン
(イソパラフィン、ノナン含有)

化学物質排出把握管理促進法(PRI法)

オクタメチルシクロテトラシロキサン管理番号:601 政令番号1-096

毒物及び劇物取締法

劇物:トルエン、メタノール

その他の国内法令

16. その他の情報

安全上重要であるがこれまでの項目名に直接関連しない情報

参考文献 原料 SDS

NITE Gmics GHS混合物分類判定ラベル/SDS作成支援システム

備考

製品安全データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 キラコートEX 本剤 B液

会社情報

会社名 協和商工株式会社
住所 大阪府泉大津市田中町10-7
電話番号 0725-21-5767
FAX番号 0725-21-7827

用途と使用上の制限 自動車塗装表面の艶出し保護膜の形成

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性・引火性液体 : 区分4

人健康有害性

環境有害性

GHSラベル要素

絵表示

又はシンボル

注意喚起語
危険有害性情報

警告
可燃性液体

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のようなもののような着火源から遠ざけること
—禁煙

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

火災の場合：消火するために...を使用すること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量

成分名	含有量(重量%)	CAS No.	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.	毒劇物法該当非
ジメチルポリシロキサン	97~98	63148-62-9	7-476	非該当	非該当	非該当
アルキルシリコンレジン	1~2	1185-55-3	7-492	非該当	非該当	非該当
酢酸	0.1	64-19-7	2-688	176	非該当	非該当
リグロイン	0.5	8032-32-4	—	329	非該当	非該当
ジブチルスズ二酢酸	0.1未満	1067-33-0	2-2330	322	664	非該当

化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)官報公示整理番号

安衛法：労働安全衛生法(安衛法)名称等を通知すべき危険物及び有害物

第57条の2第1項政令指定物質の政令番号
PRTR法No. : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
(PRTR法) 対象化学物質の政令番号
毒劇物該非 : 毒物劇物取締法 毒物及び劇物取締法の別表一(毒物)、別表二(劇物)、別表三
(特定毒物) 毒物及び劇物指定令の該当の可否

4. 応急処置

吸入した場合

蒸気、ガスなどを大量に吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

大量の水及び石鹼を使用して十分に洗い落とすこと。
外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、直ちに医師の診断を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと
コンタクトレンズを着用していて、容易にとれる場合は、コンタクトレンズをはずし、更に洗浄を続けること。
医師の診断、手当てを受けること

飲み込んだ場合

口をよくすすぐこと
無理に吐かせないこと
直ちに医師に連絡すること

5. 火災時の措置

消火剤

炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂
大規模火災には、霧状の水(棒状の水を用いてはならない。)又は泡消火剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害物質

燃焼生成物へのばく露は健康に害を及ぼす場合がある。
消火作業は、可能な限り風上から行なう。

特有の消火方法

可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。
消火作業は、可能な限り風上から行なう。

消火を行う者の保護

適切な保護具(有機ガス用防毒マスク、手袋等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業の際には保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。
屋内で漏洩した場合は十分に換気を行うこと。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。
漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖室への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法・機材

全ての発火源を取り除く(近傍の禁煙、火花や火災の禁止)
少量の場合、乾燥土、不燃材料、砂等を用いて吸着させて、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

安全取り扱い注意事項

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する

火気のある所では取扱わないこと。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

使用前に説明書を入手すること

取扱い後はよく手を洗うこと

屋外又は換気の良いところで使用すること。

接触回避

安定性及び反応性を参照

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと

保管

安全な保管条件

通気の良い場所に保管すること。

子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

局所排気装置、全体換気の設備を使用する。

許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
ジメチルポリシロキサン	規定なし	規定なし	規定なし
アルキルシリコンレジン	規定なし	規定なし	規定なし
酢酸	規定なし	TWA: 10 ppm OEL TWA: 25 mg/m ³ OEL	STEL: 15 ppm TWA: 10 ppm 規定なし

設備対策

局所排気装置、全体換気の装置を設置すること。

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器用の保護具を借用すること。

必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

手の保護具

必要に応じて保護手袋等を使用する。

目の保護具

必要に応じて保護眼鏡を使用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護面等を使用する。

不燃性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

外 観	形 状	液体	色	無色透明
引 火 点	64.2℃	密 度 (比 重)	0.940g/cm ³	
溶 解 度	石油系溶剤に可溶 水に不溶		(20℃)	

10. 安定性及び反応性

反 応 性 : 情報なし

安 定 性 : 常温以下では安定。

危険有害反応可能 : 危険な重合は起こらない。

避 け る べ き 条 件 : 特になし。

混 触 危 険 物 質 : 強酸化剤と反応する場合がある。

危険有害な分解生成物：二酸化ケイ素、酸化炭素類、微量の不完全燃焼した炭素化合物
ホルムアルデヒド

1 1. 有害性情報

製品についての情報 測定データなし

成分についての情報	ジメチルポリシロキサン	アルキルシリコンレジン	酢酸
急性毒性(経口)	分類対象外	分類できない	区分外
急性毒性(経皮)	分類対象外	分類できない	区分4
急性毒性(吸入:気体)	分類対象外	分類できない	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外	分類できない	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類対象外	分類対象外	区分1
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類対象外	分類できない	区分1
呼吸器感受性	分類対象外	分類できない	分類できない
皮膚感受性	分類対象外	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類対象外	分類できない	分類できない
発がん性	データなし	データなし	分類できない
生殖毒性	データなし	データなし	分類できない
生殖毒性 授乳影響	データなし	データなし	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし	データなし	区分1 呼吸器系 血液
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし	データなし	分類できない
誤えん有害性	データなし	データなし	分類できない

1 2. 環境影響情報

成分についての情報	ジメチルポリシロキサン	アルキルシリコンレジン	酢酸
水生環境有害性 (急性)	分類対象外	分類できない	区分3
水生環境有害性 (慢性)	分類対象外	分類できない	区分外
オゾン層への有害性	データなし	データなし	データなし

ジメチルポリシロキサンの情報として

残留性・分解性	土壌中では分解する。
生態蓄積性	生態蓄積の可能性はない。
土壌中の移動性	沈降または下水汚泥に結合することにより水から除去される。
オゾン層への有害性	データなし

酢酸の情報として

残留性・分解性	分解度：74 % by BOD (経産省既存化学物質安全性点検)
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	オゾン層破壊物質ではない。

アルキルシリコンレジンの情報として

残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : 危険物
航空規制情報 : 危険物
国連分類 : 3
(Class)
国連番号 : 1866
(UN Number)
輸送品名 : RESIN SOLUTION
(Proper Shipping Name)
包装分類 : II
(Packing Group)
危険性ラベル : Flammable Liquid

国内規制

陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。
積載方法 : 運搬時の積み重ね高さは3m以下。
海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法 : 第4類 第二石油類 非水溶性液体
労働安全衛生法 : 該当 3.組成、成分情報に記載
有機溶剤中毒予防規則 : 該当 リグロイン
毒物及び劇物取締法 : 非該当 3.組成、成分情報に記載
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法律(化管法)
(PRTR法) : ジブチルスズ二酢酸 3.組成、成分情報に記載

16. その他

引用文献

各原料「SDS」
GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

備考

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための
参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。
取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に
応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願い
いたします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

製品安全データシート(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称

キラクリーナー

作成日 2001年1月29日

改訂日 2023年6月12日

整理番号: A046

会社情報

会社名 協和商工株式会社
 住所 大阪府泉大津市臨海町1丁目39
 担当部門 製造技術部 技術課
 電話番号 0725-21-5767
 FAX番号 0725-21-7827

用途と使用上の制限 ガラスコーティング後の汚れ取り、艶出し剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	・ 引火性液体	: 区分3
人健康有害性	・ 急性毒性(経皮)	: 区分3
	・ 急性毒性(吸入:蒸気)	: 区分3
	・ 皮膚腐食性/刺激性	: 区分2
	・ 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分2A
	・ 生殖細胞変異原性	: 区分2
	・ 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分2(呼吸器系)
	・ 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分2(呼吸器系)
	・ 吸引呼吸器有害性	: 区分1
環境有害性	・ 水生環境有害性(急性)	: 区分1
	・ 水生環境有害性(慢性)	: 区分1

GHSラベル要素
絵表示

注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・ H 226 引火性液体および蒸気
- ・ H 311+331 皮膚に接触したり吸入すると有害
- ・ H 315 皮膚刺激
- ・ H 319 強い眼刺激
- ・ H 341 遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・ H 371 呼吸器系の障害のおそれ
- ・ H 373 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系の障害のおそれ
- ・ H 410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- P 201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P 202 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P 210 熱/火花/裸火/高温のようなもののような着火源から遠ざけること
—禁煙
- P 233 容器を密閉しておくこと。
- P 240 容器を接地すること。
- P 241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/を使用すること。
- P 242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P 243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- P 260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P 261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

- P 264 取扱い後は手をよく洗うこと。
- P 270 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- P 271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- P 273 環境への放出を避けること。
- P 280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【 応急措置 】

- P 302+352
皮膚に付着した場合 多量の水と石けんで洗うこと。
- P 303+361+353
皮膚に付着した場合：
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと 皮膚を流水で/シャワーで洗うこと。
多量の水と石けんで洗うこと。
- P 304+340
吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息
させること。
- P 306+351+338
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P 308+311
ばく露又はばく露の懸念がある場合： 医師に連絡すること。
- P 308+313
ばく露又はばく露の懸念がある場合： 医師の診断/手当てを受けること。
- P 311 医師に連絡すること。
- P 312 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- P 314 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- P 321 特別な処置が必要である（このラベルの...を見よ）。
- P 332+313
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P 337+313
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P 361+364
汚染された衣服を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P 362+364
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P 370+378
火災の場合：消火するために...を使用すること。
- P 391 漏出物を回収すること。

【 保 管 】

- ・ P 405 施錠して保管すること。
- ・ P 403+233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ P 403+235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【 廃 棄 】

- ・ P 501 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
成分及び含有量

成分名	含有量 (重量%)	C A S No.	化審法No.	安衛法No.	P R T R法No. 改訂後 管理番号	毒劇物法該非
ミネラルスピリット	25～30	非公開	非公開	551	非該当	非該当
1,2,4-トリメチルベンゼン	1～2	非公開	非公開	404	1-342	非該当
1,3,5-トリメチルベンゼン	<1	非公開	非公開	404		非該当
トリメチルベンゼン						非該当
モルホリン	1～3	110-91-8	非公開	604	非該当	非該当
ワックス(天然・合成)	5～10	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
研磨剤	5～10	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
その他(乳化剤、染料等)	1～5	非公開	非公開	非該当	非該当	非該当
水	残量					

安 衛 法 : 労働安全衛生法(安衛法)第57条の2第1項政令指定物質の政令番号

P R T R法No. : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
(P R T R法)対象化学物質の政令番号と管理番号

毒劇物該非 : 毒物劇物取締法 毒物及び劇物取締法の別表一(毒物)、別表二(劇物)、別表三
(特定毒物)毒物及び劇物指定令の該当の可否

※混合物の為、非該当

4. 応急処置

吸入した場合

蒸気、ガスなどを大量に吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

大量の水及び石鹸を使用して十分に洗い落とすこと。

外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、直ちに医師の診断を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと

コンタクトレンズを着用していて、容易にとれる場合は、コンタクトレンズをはずし、更に洗浄を続けること。

医師の診断、手当てを受けること

飲み込んだ場合

口をよくすすぐこと

無理に吐かせないこと

直ちに医師に連絡すること

5. 火災時の措置

消火剤

炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂

大規模火災には、霧状の水(棒状の水を用いてはならない。)又は泡消火剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害物質

燃焼生成物へのばく露は健康に害を及ぼす場合がある。

消火作業は、可能な限り風上から行なう。

特有の消火方法

可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。

消火作業は、可能な限り風上から行なう。

消火を行う者の保護

適切な保護具(有機ガス用防毒マスク、手袋等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

- 作業の際には保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。
- 屋内で漏洩した場合は十分に換気を行うこと。
- 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- 着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。
- 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

- 環境中に放出してはならない。
- 流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意する。
- 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖室への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- 全ての発火源を取り除く(近傍の禁煙、火花や火災の禁止)
- 少量の場合、乾燥土、不燃材料、砂等を用いて吸着させて、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
- 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。
- 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

安全取り扱い注意事項

- 保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する
- 温度40℃以上の所では取扱わないこと。
- 火気のある所では取扱わないこと。
- 温度40℃以上に暖めないこと。
- 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
- 使用前に説明書を入手すること
- 取扱い後はよく手を洗うこと
- 屋外又は換気の良いところで使用すること。

接触回避

- 安定性及び反応性を参照

衛生対策

- 取扱い後はよく手を洗うこと

保管

安全な保管条件

- 温度40℃以上になる所に保管しないこと。
- 通気の良い場所に保管すること。
- 子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。
- 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

安全な容器包装材料

- 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
ミネラルスピリット	設定なし	設定なし	設定なし
1,2,4-トリメチルベンゼン	設定なし	25 ppm	TWA 25 ppm
1,3,5-トリメチルベンゼン	設定なし	25 ppm	TWA 25 ppm
モルホリン	設定なし	25 ppm	TWA 20 ppm
ワックス(天然・合成)	設定なし	設定なし	2mg/m ³ (ハーフインフュージョンとして)
研磨剤	設定なし	2mg/m ³	TWA 2mg/m ³
その他(香料等)	設定なし	設定なし	設定なし

設備対策

局所排気装置、全体換気の装置を設置すること。
 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器用の保護具を借用すること。
 必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

手の保護具

必要に応じて保護手袋等を使用する。

眼の保護具

必要に応じて保護眼鏡を使用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護面等を使用する。
 不燃性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

外 観 ・ 形 状	: 液体	色	: 白色乳化
臭	: 溶剤臭	密 度 (比 重)	: 0.972g/cm ³ (20℃)
引 火 点	: 51.5℃	粘 度	: 1500mPa・s
		溶 解 性	: 水に可溶

10. 安定性及び反応性

反 応 性 : 情報なし
 安 定 性 : 常温では安定
 危険有害反応可能 : 酸化性物質と反応し、激しく燃焼する可能性あり。
 避けるべき条件 : 加熱や、禁忌物との接触、着火源
 混 触 危 険 物 質 : 酸化性物質
 危険有害な分解生成物 : 有機溶剤の蒸気、ガスなど

11. 有害性情報

製品についての情報 測定データなし

成分についての情報

	ミネラルスピリット	モルホリン	ワックス	研磨剤
急性毒性(経口)	ラットLD50 5g/kg	区分 4	分類対象外	分類できない
急性毒性(経皮)	データなし	区分 3	分類対象外	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	データなし	分類対象外	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし	区分 3	分類対象外	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし	分類できない	分類対象外	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分 2	区分 1	分類対象外	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	データなし	区分 2 A	分類対象外	分類できない
呼吸器感作性	データなし	分類できない	分類対象外	分類できない
皮膚感作性	データなし	区分外	分類対象外	分類できない
生殖細胞変異原性	データなし	区分 2	分類対象外	分類できない
発がん性	データなし	区分外	データなし	分類できない
生殖毒性	データなし	区分外	データなし	データなし
生殖毒性 授乳影響	データなし	分類できない	データなし	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3	区分 1	データなし	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2	区分 1	データなし	データなし
誤えん有害性	データなし	分類できない	データなし	データなし

ミネラルスピリット

局所効果:皮膚や目、粘膜に対し、長期又は繰り返し接触する場合には刺激性がある恐れがある。

トリメチルベンゼン

局所効果:皮膚や目、粘膜に対し、長期又は繰り返し接触する場合には刺激性がある恐れがある。

モルホリン

急性毒性:経口マウス LD50 15,000mg/kg以上(類似品のデータ)

皮膚刺激性:モルモット 軽度

目刺激性:ウサギ Draize法:刺激性なし～最小の刺激

変異原性:Ames試験:陰性、DNA修復試験:陰性

12. 環境影響情報

製品についての情報 測定データなし

成分についての情報

	ミネラルスピリット	モルホリン	ワックス	研磨剤
水生環境急有害性(短期)	区分1	区分3	分類対象外	分類できない
水生環境急有害性(長期)	区分1	区分3	分類対象外	分類できない
オゾン層への有害性	データなし	データなし	データなし	データなし

生態毒性

製品についての情報 測定データなし

モルホリン

ヒメダカ:96h LC50:>1,000mg/L

残留性・分解性

製品についての情報 測定データなし

合成ワックス

乾燥土壌中で分解される可能性あり

生体蓄積性

製品についての情報 測定データなし

土壌中の移動性

製品についての情報 測定データなし

ミネラルスピリット

物理化学的性質から見て、大気、水系、土壌環境に移動しうる。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さないこと。

排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

汚染容器・包装

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄業者に業務委託して下さい。

14. 輸送上の注意

国際規制

品 名 : 石油製品
 国 連 分 類 : クラス3 (引火性液体)
 国 連 番 号 : 1268
 容 器 等 級 : 容器等級Ⅲ
 海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

船 舶 安 全 法 : 引火性液体類
 航 空 法 : 引火性液体類
 港 則 法 : 引火性液体類
 消 防 法 : 危険物第4類 第二石油類 (水溶性液体)

安全対策

輸送の際は、容器漏れのないことを確かめ、荷崩れのないように処置を講ずること。
 取扱い及び保管上の注意の項に従う。

15. 適用法令

消 防 法 : 該当 第四類第二石油類「水溶性」
毒物及び劇物取締法 : 非該当
労働安全衛生法 : 該当 名称等を通知すべき危険物及び有害物 57条の2第1項
ミネラルスピリット 1,2,4-トリメチルベンゼン 1,3,5-トリメチルベンゼン
: 第3種有機溶剤等 ミネラルスピリット
化 審 法 : 優先評価化学物質 1,2,4-トリメチルベンゼン
化学物質排出把握管理促進法 : 該当 第2条第1種指定化学物質 3.組成、成分情報に記載
PRTR法 2023年4月1日以降トリメチルベンゼンに統合

16. その他

引用文献

各原料「SDS」

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

備 考

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。

取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

製品安全データシート(SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称

キラローション

作成日：2011年 10月21日

改訂日：2022年3月25日

整理番号：A089

会社情報

会社名 協和商工株式会社
 住所 大阪府泉大津市臨海町1丁目39
 担当部門 製造技術部 技術課
 電話番号 0725-21-5767
 F A X 番号 0725-21-7827

用途と使用上の制限 自動車塗装表面の艶出し保護剤

2. 危険有害性の要約

G H S 分類
 物理化学的危険性

人健康有害性

環境有害性

G H S ラベル要素

絵表示

又はシンボル なし

注意喚起語

危険有害性情報

注意書き

【 安全対策 】

【 応急措置 】

【 保 管 】

【 廃 棄 】

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量

成分名	含有量(重量%)	C A S No.	化審法No.	安衛法No.	P R T R 法No.	毒劇物法該当
シリコンオイル	1～5	63148-62-9	7-476	非該当	非該当	非該当
アルキルアミン酢酸塩	1～5	61790-59-8	2-133	非該当	非該当	非該当
水	90以上					

安 衛 法 : 労働安全衛生法(安衛法)名称等を通知すべき危険物及び有害物

第57条の2第1項政令指定物質の政令番号

P R T R 法No. : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
 (P R T R 法)対象化学物質の政令番号

毒劇物該当 : 毒物劇物取締法 毒物及び劇物取締法の別表一(毒物)、別表二(劇物)、別表三
 (特定毒物)毒物及び劇物指定令の該当の可否

4. 応急処置

吸入した場合

蒸気、ガスなどを大量に吸い込んだ場合には、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動させ、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

大量の水及び石鹼を使用して十分に洗い落とすこと。
 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、直ちに医師の診断を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと

コンタクトレンズを着用していて、容易にとれる場合は、コンタクトレンズをはずし、更に洗淨を続けること。

医師の診断、手当てを受けること

飲み込んだ場合

口をよくすすぐこと

無理に吐かせないこと

直ちに医師に連絡すること

5. 火災時の措置

消火剤

炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂

大規模火災には、霧状の水(棒状の水を用いてはならない。)又は泡消火剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害物質

燃焼生成物へのばく露は健康に害を及ぼす場合がある。

消火作業は、可能な限り風上から行なう。

特有の消火方法

可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。

消火作業は、可能な限り風上から行なう。

消火を行う者の保護

適切な保護具(有機ガス用防毒マスク、手袋等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

作業の際には保護手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。

屋内で漏洩した場合は十分に換気を行うこと。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

流出した製品が河川等に排出され、環境へ流出しないように注意する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖室への流入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法・機材

全ての発火源を取り除く(近傍の禁煙、火花や火災の禁止)

少量の場合、乾燥土、不燃材料、砂等を用いて吸着させて、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

安全取り扱い注意事項

保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

使用前に説明書を入手すること

取扱い後はよく手を洗うこと

屋外又は換気の良いところで使用すること。

接触回避

安定性及び反応性を参照

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと

保管

安全な保管条件

通気の良い場所に保管すること。

子供の手の届かない所に、施錠して保管すること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 安全な容器包装材料
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

局所排気装置、全体換気の設備を使用する。

許容濃度

成分名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
シリコンオイル	規定なし	規定なし	規定なし
アルキルアミン酢酸塩	規定なし	規定なし	規定なし

設備対策

局所排気装置、全体換気の装置を設置すること。
 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 本製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器用の保護具を借用すること。
 必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

手の保護具

必要に応じて保護手袋等を使用する。

眼の保護具

必要に応じて保護眼鏡を使用する。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて保護衣、保護面等を使用する。
 不燃性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

外 観 ・ 形 状	液体	色	無色透明液
引 火 点	なし	密 度 (比 重)	0.991/cm ³ (20℃)
pH	5.1		
溶 解 度	水に可溶		

10. 安定性及び反応性

反 応 性	情報なし
安 定 性	情報なし
危険有害反応可能	情報なし
避 け る べ き 条 件	情報なし
混 触 危 険 物 質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

製品についての情報 測定データなし

成分についての情報	シリコンオイル	アルキルアミン酢酸塩
急性毒性(経口)	分類対象外	分類できない
急性毒性(経皮)	分類対象外	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	分類対象外	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類対象外	分類できない
眼損傷・眼刺激性	分類対象外	分類できない
呼吸器感作性	分類対象外	分類できない
皮膚感作性	分類対象外	分類できない
生殖細胞変異原性	分類対象外	分類できない
発がん性	データなし	データなし
生殖毒性	データなし	データなし
生殖毒性 授乳影響	データなし	データなし

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	データなし	データなし
	データなし	
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	データなし	データなし
吸引呼吸器有害性	データなし	データなし

1 2. 環境影響情報

製品についての情報	測定データなし	
成分についての情報	シリコンオイル	アルキルアミン酢酸塩
水生環境有害性 (急性)	分類対象外	分類できない
水生環境有害性 (長期間)	分類対象外	分類できない
オゾン増への有害性	データなし	データなし

シリコンオイルの情報として

残留性・分解性	土壌中では分解する。
生態蓄積性	生態蓄積の可能性はない。
土壌中の移動性	沈降または下水汚泥に結合することにより水から除去される。
オゾン層への有害性	データなし

アルキルアミン酢酸塩

残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。**1 4. 輸送上の注意**

国際規制

海上規制情報

航空規制情報

国連分類 : 非該当
(Class)国連番号 : 非該当
(UN Number)輸送品名 : 非該当
(Proper Shipping Name)包装分類 : 非該当
(Packing Group)

危険性ラベル : 非該当

国内規制

陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。
積載方法 : 運搬時の積み重ね高さは3m以下
海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。**1 5. 適用法令**

消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当

有機溶剤中毒予防規則： 非該当

毒物及び劇物取締法： 非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法律(化管法)
： 非該当 3.組成、成分情報に記載

16. その他

引用文献

各原料「SDS」

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

備考

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。

取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。
